

都市建設環境常任委員会審査報告

(1 ページ)

ハイサイ、都市建設環境常任委員会です。

これより今年4月に策定された「第4次那覇市一般廃棄物処理計画」について報告いたします。

(2 ページ)

那覇市では、長期的・総合的視野に立ち、「ごみ」や「し尿」などの一般廃棄物を適正に処理するための計画を、環境審議会からの専門的な知見や市民意見をいかして策定しています。

一般廃棄物処理基本計画は、「ごみ処理基本計画」と「生活排水処理基本計画」で構成されており、4つの行動理念「4R」を通して省エネに取り組み、資源が循環するまちづくりの実現を目指しています。

第4次計画の期間は、2020（令和2）年度から2027（令和9）年度までの8年間です。

なお、今回の特徴として、食品ロス削減推進法が昨年5月に公布されたことから、「食品ロス削減の推進」が「ごみ減量に関する基本方針」に盛り込まれました。

この報告では、「ごみ処理基本計画」に焦点を当て、概要と議会での議論などについて紹介します。

(3 ページ)

はじめに、那覇市のごみ処理の現状について説明します。

本市の2018（平成30）年度のごみ総排出量は10万5,247トンで、ほぼ増加傾向で推移しています。

事業系ごみとして事業所から排出される缶・ビン・ペットボトルは、これまで資源化物として取り扱われてきましたが、近年、資源化の妨げになる物質の混入が多く見受けられることなどから、今年4月から処理方法の適正化を図り、産業廃棄物の扱いとなりました。

市は、市内事業者チラシを配布し、説明会を開くなど周知と理解・協力を求めましたが、折しも新型コロナの影響で経営的に打撃を受けた時期に重なり、事業者としては、産廃免許を持つ許可業者に手数料を払って処分することは、

さらなる負担で重く苦しいとの声が上がりました。

議会では、多くの議員がこのような事業者の声をとり上げ、事業者に努力を求めるだけでなく、事業者に与える負担感や不安感から不法投棄の懸念を指摘するとともに、事業者からの相談に寄り添った対応を行うよう、市に提案しています。

（４ページ）

次に、資源化物についてです。

搬入されたごみから回収した資源化物の「総資源化量」はほぼ横ばいで、「リサイクル率」は、15%前後で推移しています。

リサイクルで最も優秀な実績を上げてきた古紙ですが、昨年から、中国の輸入規制により単価が暴落しています。

委員会の質疑では、那覇市の古紙取り引き状況も、これまで有償だったものが、現在は無償での取り引きが続いていることが分かりました。

資源化物持ち去り防止拠点回収事業に登録する団体も、50団体超えから38団体にまで減少しています。

（５ページ）

今回の計画では、前回の計画の目標達成が困難な状況であることから、課題を整理し、対策を講じるため、基本方針を見直しました。

また、目標値は、第3次計画と同じ値に据え置き、

1人1日当たりのごみ排出量は713g

リサイクル率は25%

としています。

（６ページ）

市議会では、この「第4次計画」をチェックしながら、資源が循環する那覇市のまちづくりに取り組んでまいります。

ご清聴ありがとうございました。